平成２５年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	運動部に見られる暴力的体質の起源に関する研究－敗戦直後期における旧制高等学校の状況把握を中心に－

研究代表者

氏名	所属	職名
鈴木　秀人	芸術スポーツ科学系 健康・スポーツ科学講座	教　授

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

本研究の目的は、我が国の運動部に見られる指導者や上級生による体罰やしごき、またそれらを支える封建的な上下関係などに象徴される暴力的体質の起源が、軍隊の行動様式の模倣にあるとするミリタリズム起源説の真偽について明らかにすることであった。

具体的な検討の対象として、我が国の運動部活動のモデルとなった旧制高等学校に焦点を絞り、ミリタリズム起源説が言う、第２次世界大戦後に軍隊経験者がその経験を運動部に持ち込んだとする敗戦直後の時期の状況把握を中心に考察を行った。

考察に必要な主たる資料は、23 人の旧制高校卒業生に対するインタビュー調査と各校の同窓会誌や運動部部史等の文献資料から得るとともに、大倉精神文化研究所が所蔵する旧制高校卒業生に対して行われた質問紙調査結果の２次分析から得たものである。考察の結果、以下のような知見が導かれた。

1）従来から俗説としてあるミリタリズム起源説は、戦前・戦中の 1930 年代後半に学校運動部は軍隊的な行動様式をとる集団に変容したとする見方（城丸章夫など）と、戦後に復員した軍隊経験者が運動部にその経験を持ち込んだとする見方（川本信正など）の二つの主張があるが、どちらも実証的に確かめられたものではない。

2）今回のインタビュー調査の結果では、旧制高校の運動部において、城丸が言うような変容は 1930 年代後半に起こっていなかった。「報国団」の結成によって部の名称が変更されたり、適性スポーツとされた野球部が解散させられた等々の変化は確認されたものの、この時期に軍隊的な行動様式が運動部の中に浸透していったということはなかった。

3）敗戦後の旧制高校には、消滅した軍関係学校からの入学者・編入者が混在することになったが、今回の調査においてはそれら軍隊関係者はいずれも運動部には所属していないし、彼らが軍隊経験に基づくような特段に変わった行動をとることもなかったことが確認できた。

4）15 人の旧制高校運動部経験者に共通して語られたことは、練習は「血ヘどを吐くような」猛練習であったが、そこにしごきや体罰のような暴力的行為は一切なかったということである。このことは、各校の部史などにおいても確認できる。

5）注目されたのは、「上下関係は一切なかった」と語られた一高野球部をはじめ、しばしば運動部の暴力的行為を支えてしまう封建的な上下関係が見られなかったということである。したがって、下級生が上級生の雑用をさせられるといった風習も、旧制高校運動部の中にはなかった。

6）補足的に行った私立大学運動部に関する文献調査では、1930 年代後半に鉄拳制裁が横行しつつあった状況が確認できるとともに、敗戦直後には、軍隊経験者がそれを運動部合宿所の中に持ち込んでいた事実も確認された。また、師範学校経験者によると、戦前の師範学校にはかなり暴力的体質があったが、敗戦後にはそれは相当に是正されたということであった。

7）我が国の運動部に見られる暴力的体質のルーツは、歴史上のある一点に求められるような単純なものではないと考えられた。したがって今後は、戦前において複数存在した異なる教育機関それぞれの特徴とそこでの運動部活動の状況を個々にフォローしながら、暴力的体質と親和性のある集団とない集団を見極めていくことが必要である。

以上のような成果をもとに、運動部に見られるかかる問題の解決に向けて、さらに考察を深めていきたい。

研究成果発表方法

［発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。］

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

1）鈴木秀人（2014）「運動部における体罰のルーツを問い直す」体育科教育 62（3）pp.68-71.

2）鈴木秀人（2014）「学校運動部における体罰のルーツを問い直す」日本体育科教育学会第 19 回大会ラウンドテーブルディスカッション（発表予定）.